

60<sup>th</sup> Internationale  
Filmfestspiele  
Berlin  
Competition

35年ぶり、日本人3人目の快挙!  
第60回ベルリン国際映画祭  
銀熊賞(最優秀女優賞)受賞作品

忘れるな、  
これが戦争だ……

# キヤダピラー CATERPILLAR

製作・監督 若松孝二 主演 寺島しのぶ 大西信満

『死んだ女の子』

歌:元ちとせ

作詞:ナジム・ヒクメット

作曲:外山雄三

編曲:坂本龍一



<http://www.wakamatsukoji.org>



戦争とは、人間が人間に、犯され、切り刻まれ、焼かれることだ。  
人が、人を、犯すことだ。  
人が、人を、切り刻むことだ。  
人が、人を、焼き殺すことだ。

若松孝二は問う。「正義の戦争が、どこにあるのか」

巨大なキノコ雲の、あるいは降り注ぐ焼夷弾の、  
あるいは大量虐殺の、その下に潰される前、  
灯りの灯った小さな家々には、  
男が、女が、年寄りが、子どもがいた。人間がいた。  
食べて、寝て、食べて、寝て、食べて、寝て…。

傷痍軍人が、帰還した。

勲章をぶら下げ、軍神となって。  
妻を殴ったその手も、妻を蹴り上げたその足も、  
戦地で失い、頭と胴体だけの姿になって。

—銃後の妻の鑑たれ。家庭は最後の決戦場なり。  
口もきけず、耳も聞こえず、身動きのできない体となっても  
男の性欲は変わらなかった。女は毎日、男の上にまたがった。  
口に粥を流し込み、糞尿の世話をし、男の下半身にまたがり、  
銃後の妻の日々は過ぎていく。  
食べて、寝て、食べて、寝て、食べて、寝て…。  
稲穂が頭を垂れる秋、そして冬から春へ。

敗戦が色濃くなっていく中、  
男の脳裏にフラッシュバックしてきたのは、  
かつて、大陸で犯した女たちの悲鳴、  
刺殺した女たちのうつろな目。女たちを焼き尽くす炎。

1945年8月15日。男と女に、敗戦の日が訪れた—————。

前作「実録・連合赤軍」から2年。  
赤軍の若者たちが立ち上がった背後には、  
親世代の戦争責任を問い、  
再び戦争に荷担しようとする国家への  
怒りがあったはずだと若松孝二は言う。

戦争とは何なのか。

国家のために、人が人を殺すとは、何なのか。

「正義の戦争が、どこにあるのか」

映画の全編に貫かれているのは、若松の叫びである。

戦争の20世紀を経て、今もまだ同じ過ちを繰り返すこの世界に  
若松はこぶしを振り上げ、呼び続ける。

血にまみれた大地のにおいを忘れるな。

焼けた遺体のにおいを忘れるな。

忘れるな、これが戦争だ……

## 製作・監督 若松孝二

<スタッフ>

プロデューサー：尾崎宗子/  
脚本：黒沢久子・出口出/ラ  
インプロデューサー：大日方教  
史/撮影：辻智彦・戸田義久  
/照明：大久保礼司/音楽  
プロデューサー：高護/録音：  
久保田幸雄/編集：掛須秀  
一/美術：野沢博実/衣裳：  
宮本まさ江

<キャスト>

寺島しのぶ(黒川シゲ子)/  
大西信満(黒川久蔵)/吉  
澤健(黒川健蔵)/稲谷佳  
五(黒川忠)/増田恵美(黒  
川千代)/河原さぶ(村長)  
/石川真希(村長夫人)/  
地曳豪(軍人1)/ARATA(軍  
人2)/篠原勝之(クマ)ほか  
<配給>  
若松プロダクション/  
スコレ株式会社  
カラー/35mm/1時間24分

**田原総一朗**●若松孝二ならではの究極の反戦映画。国を挙げての“軍神ごっこ”を痛烈に描ききった作品である。

**鳥越俊太郎**●この映画は今やほとんどの日本人が忘れ去ろうとしている太平洋戦争をはじめとする「戦争」の本質を鋭く抉り出し、観る者をして思わずもむしと化した男の胸中に思いをいたす。ズキズキとわが身が痛い、反戦映画である。当世の若者たちに是非観てほしい。

**おすぎ**●若松監督の訴えたい事が心の底から判る映画です。身体の自由が思う様にならない夫と介護する妻のふたりの切なさ、ツラさを思い涙が止まりませんでした。全国民必見の一本です。

**木村佳乃**●ヴァイブレータを観た時とは異なる衝撃を受けました。寺島しのぶさんを通して1人の女性の人生を体感することができました。これはそう簡単にできる事ではない。素直にそう思います。

**佐々木希**●戦争は怖い。ただただそう思いました。こんなに怖い戦争が、今も世界のあちこちでおこっている事は本当に悲しいです。私と同じ世代の人たちに絶対観てもらいたい映画です。

**四方田犬彦**●若松孝二は一貫して、日本人が目を見せたい日本を観客の前に差し出してきた。だがよく見ろ、これがお前の姿なのだ、若松孝二は語りかける。彼は過ぎ去った歳月の物語を撮っているのではない。日本人にむかって生々しい記憶の鏡を差し出しているのだ。

**ゲージツ家・KUMA**●テレビ画面サイズのヒロインばやりの昨今、こんな美しい女体の体温を感じさせるニッポン女優を知らなかった。〈軍神〉に献身していた女が、ついに自分を取り戻した瞬間、オレの下半身が熱くなっていた。〈勃起〉と〈怒り〉が同時に疼いた。まだ何も答えを出さないでいる今日に気づかされるWAKAMATSU映画である。

**周防正行**●単なる反戦映画ではない。戦争がもたらす悲惨を通じて、深く人間を洞察しようとする映画だ。若松孝二監督の並々ならぬ思いを真っ向受けて立つ寺島しのぶの強さと美しさに圧倒された。

**廣木隆一**●若松監督作品で、新しいステージに立った寺島しのぶはやはり潔く、やさぐれて、格好いいです!

**奥山篤信**●どうか保守・右翼の方々、この映画を矮小化して政治的な反映画的に捉えるのはやめて貰いたい。若松監督は、日常人の悲惨さを通じて、純粹なる反戦・反国家のアナーキーの理想郷としての人間社会を、戦争がぶち壊すものとして描いていると理解してもらいたい。

(一部のコメントは、書籍「若松孝二 キャタピラー」より抜粋)

料金	R15+
前売1000円	
当日(大人)1300円	
(大学・専門学校生)1000円	
(高校生)500円	

書籍「若松孝二 キャタピラー」  
(游学社刊・1000円 税込)  
2010年6月発行(予定)  
全国書店・上映劇場にてお求めください。



8月14日(土)~  
新潟上映スタート!!

上映スケジュールは劇場までお問い合わせください  
毎週土曜は「2人で2,000円デー」

<http://www.wingz.co.jp/cinewind/>  
[cinewind@mail.wingz.co.jp](mailto:cinewind@mail.wingz.co.jp)

前売券  
1,000円  
劇場にて発売!



新潟・市民映画館シネ・ウインド TEL025-243-5530 (万代シティ第2駐車場ビル1F)